数字で見るミウラグループ

（2026年3月31日現在）

営業基盤（連結）

ミウラグループ会社総数

60社

国内 15社
海外 45社

連結従業員数

7,896名

国内 4,394名
海外 3,502名

海外従業員比率

44.4%

売上収益 営業利益率

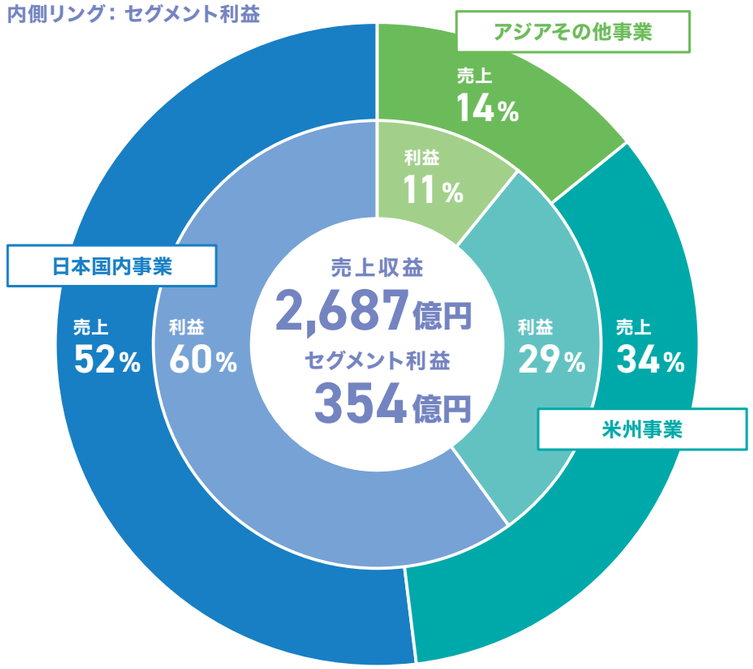
11.5%

ROE

12.4%

売上収益・セグメント利益構成（連結）

外部リング：売上収益
内側リング：セグメント利益



※ 当連結会計年度より報告セグメントを変更し、「日本国内」「米州」「アジアその他」の3つの地域区分としております。
※ 事業別の収益を分かりやすく示すため、セグメント利益（調整額除く）を掲載しています。

国内概況

国内貫流ボイラシェア 蒸発量ベースでのシェア率（三浦工業）

59.9%

国内市場における蒸発量の算出方法は、自社調べによる貫流ボイラの使用年数より算出しています。

オンラインメンテナンス管理台数（三浦工業）

約75,000台

国内拠点数（三浦工業）

92拠点

フィールドエンジニア数（三浦工業）

約1,200人

GHG排出量（Scope 1・2）※1

10,005.2 t-CO_2

エネルギー使用量（原油換算）

5,518 kL

排出物リサイクル率

93.3%

水使用量

12.9万m^3

算定範囲は、三浦工業および国内グループ ※2

算定範囲は、三浦工業（支店を除く）および国内グループ ※2

※1 Scope 1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出（燃料の燃焼、工業プロセス）、温対法基準（エネルギー起源）、Scope 2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用にともなう間接排出
※2 当該ページの「三浦工業および国内グループ」は、三浦工業、三浦マニファクチャリング、三浦アクアテック、三浦工機、三浦環境マネジメント、ミウラ・エス・エー、ミウラジョブパートナー

ミウラの国内No.1

（自社調べ）

小型貫流ボイラの国内シェア



業務用軟水装置の国内シェア



ろ過ユニット

メディカル機器 器具除染用洗浄器の国内シェア



減圧沸騰式洗浄器RR

食品機器 真空冷却機の国内シェア



業務用クリーニング機器の国内シェア



舶用補助ボイラの国内搭載数



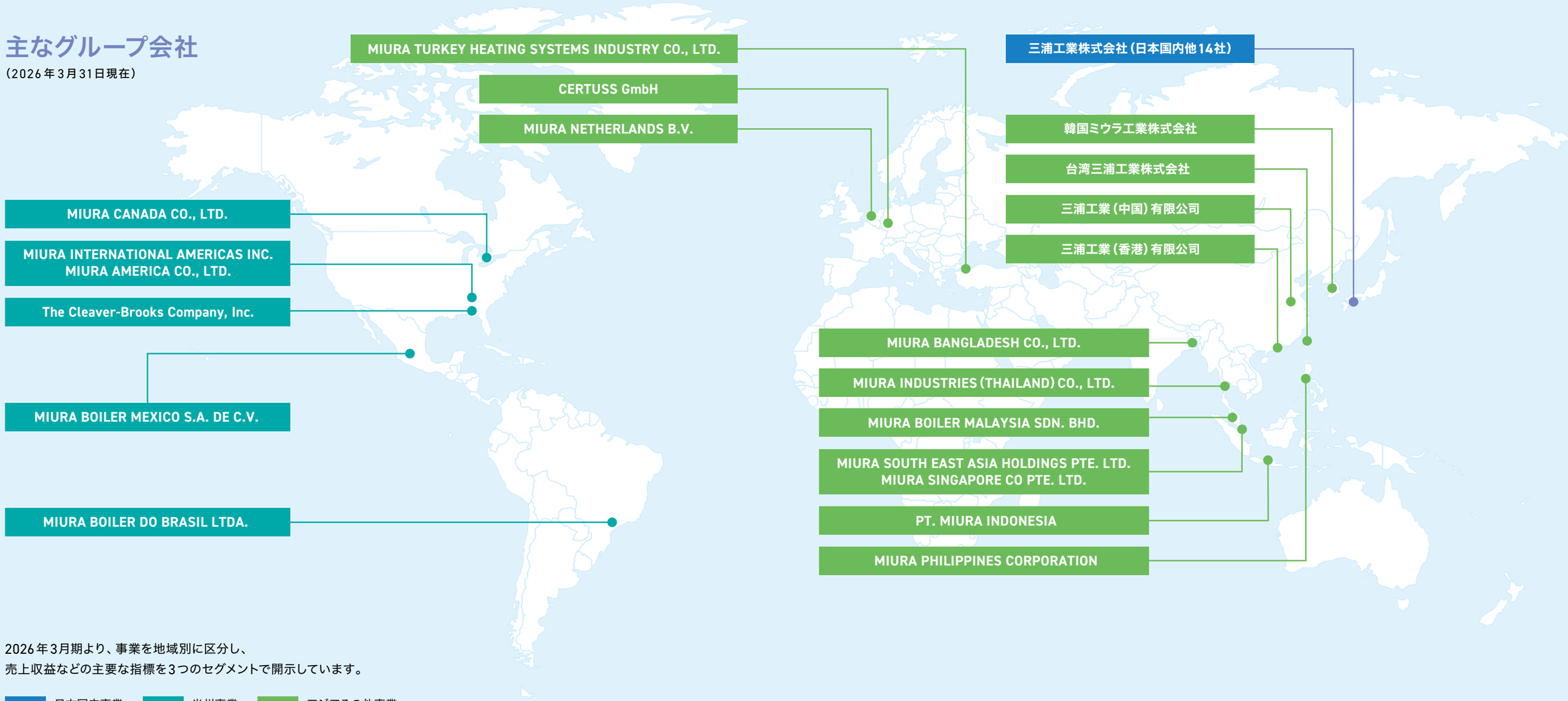
ダイオキシン分析前処理装置の国内シェア



グローバルネットワーク
50以上の国と地域に展開

主なグループ会社

（2026年3月31日現在）



2026年3月期より、事業を地域別に区分し、
売上収益などの主要な指標を3つのセグメントで開示しています。

日本国内事業　米州事業　アジアその他事業



MIURA CANADA CO., LTD.



The Cleaver-Brooks Company, Inc.



MIURA INTERNATIONAL AMERICAS INC.
MIURA AMERICA CO., LTD.


MIURA BOILER DO BRASIL LTDA.



CERTUSS GmbH



PT. MIURA INDONESIA



三浦工業（中国）有限公司



台湾三浦工業株式会社


韓国ミウラ工業株式会社



三浦工業株式会社

CONTENTS











CHAPTER 1
ミウラらしさ

1　数字で見るミウラグループ
3　グローバルネットワーク
5　目次 / 編集方針
7　ミウラグループ企業理念体系・企業行動規範
9　受け継がれる「ミウラらしさ」、一人一人の中に。
11　価値創造の軌跡
13　価値創造プロセス

CHAPTER 2
ミウラの目指す姿

15　トップインタビュー
代表取締役 社長執行役員 CEO　米田 剛

21　トータルソリューション
「まるごとメンテナンスサービス」による価値創出
お客様事例　メルシャン株式会社 藤沢工場様

23　海外事業戦略 インタビュー
代表取締役 取締役会議長兼CGGO　宮内 大介

27　ミウラグループ会社紹介（海外）
The Cleaver-Brooks Company, Inc.

29　長期成長戦略

31　中期経営計画2025-2027

33　財務担当役員メッセージ
取締役 専務執行役員 財務担当役員　廣井 政幸

37　国内事業ポートフォリオ
取締役 専務執行役員 国内販売統括本部 統括本部長
河本 憲一

38　事業紹介
38　ボイラ / メンテナンス
39　アクア / 舶用
40　食品機械 / メディカル
41　熱利用 / 環境

42　ミウラグループ会社紹介（国内）
ミウラ環境エンジニアリング株式会社

CHAPTER 3
サステナビリティ

44　サステナビリティ方針
45　サステナビリティマネジメント
46　マテリアリティ（重要課題）/ 特定プロセス
47　マテリアリティ（重要課題）のKPI
49　気候変動への対応（TCFD）
51　環境長期目標　ミウラ エコチャレンジ2050
53　環境マネジメント / 環境への取り組み
55　人財戦略
59　熱ソムリエ
60　労働安全衛生
61　品質管理
62　サプライチェーンマネジメント

CHAPTER 4
ガバナンス

64　ガバナンス高度化の歩み
65　コーポレート・ガバナンス
69　役員紹介
73　社外取締役対談
75　コンプライアンス
76　リスクマネジメント

CHAPTER 5
データセクション

77　財務・非財務ハイライト
79　10年財務データ
81　会社概要 / 株式情報

編集方針

ミウラグループは、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様に、持続可能な社会価値の創造と中長期的な企業価値向上に向けた取り組みについて、より深くご理解いただくため、統合報告書を発行しています。本報告書では、財務・非財務の両面から、当社グループの価値創造の考え方や成長戦略についてお伝えします。

「統合報告書2026」のポイント

2026年版では、当社グループがこれまで培ってきた強みの源泉に改めて目を向けました。お客様との長期的な信頼関係やサービス力・提案力、人財など、価値創造を支えるさまざまな強みの背景にある考え方や価値観を、“ミウラらしさ”という視点から紐解いています。

国内・海外に共通する「顧客密着（Close to Customers）」を軸に、米田CEOによるトップインタビュー（▶P15-20）では、ボイラを起点に工場全体の課題解決を担う企業へと進化する今後の方向性を示しています。また、宮内CGGOによる海外事業戦略（▶P23-26）では、各地域の特性や成長ステージ、それぞれの強みを尊重しながら、顧客密着型のビジネスモデルを展開していく考え方を紹介しています。

さらに、新たな企画として、国内外の従業員に「あなたが思う“ミウラらしさ”」を問いかけ（▶P9-10）、日頃の仕事や経験を振り返りながら、改めてミウラについて考えてもらいました。一人一人の多様な価値観や強みを、それぞれの言葉で紹介しています。

今後の成長の方向性と、従業員の視点を重ねることで、“ミウラらしさ”がどのように価値創造につながり、これからの成長を支えていくのかをお伝えします。

年次発行文書

三浦工業株式会社 統合報告書2026（日本語・英語）
財務情報および、企業トップからのメッセージ、環境、社会、ガバナンスなどの非財務情報を含めた総合的な情報を提供することで企業の持続可能性や価値創造プロセスをお伝えします。

ミウラグループESGデータ（日本語・英語）
環境、社会、ガバナンスに関する情報について当社ウェブサイトで公開をしています。

制度開示書類
有価証券報告書、決算短信、株主総会招集通知、コーポレート・ガバナンスに関する報告書

将来見通しに関する注記事項

本報告書における業績予測など将来に関する記述は、制作時点で入手可能な情報に基づき、当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が包括されています。したがって、さまざまな要因の変化により、実際の業績は見通しと大きく異なる可能性があることをお含みおきください。

報告対象期間

2025年4月1日～2026年3月31日　一部に、2026年4月1日以降の内容を含みます。

会計基準

別途説明がない限り、2017年3月期以前は日本会計基準、2018年3月期以降は国際会計基準（IFRS）を適用した数値を記載しています。

報告対象組織

別途説明がない限り、三浦工業およびすべての連結子会社を基本としています。

参考ガイドライン

- 国際統合報告評議会（IIRC）「国際統合報告フレームワーク」
- 経済産業省「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス」
- 環境省「環境報告ガイドライン（2018年版）」
- Global Reporting Initiative「GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダード」

企業理念

熱・水・環境の分野で、環境に優しい社会、　きれいで快適な生活の創造に貢献します

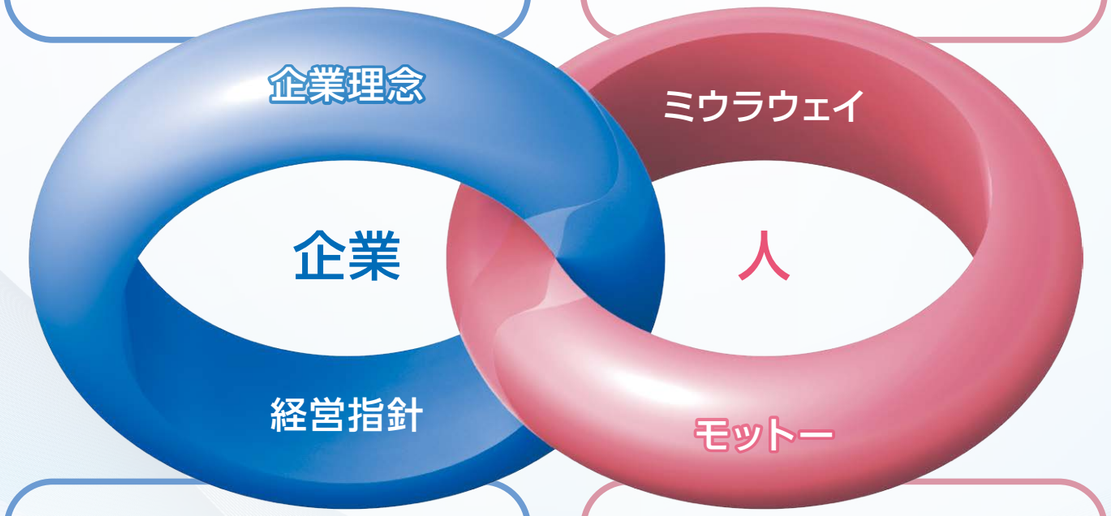
ミウラグループ企業理念体系図

経営理念

熱・水・環境の分野で、環境に優しい社会、
きれいで快適な生活の創造に貢献します

ミウラウェイ

1. 創造と挑戦
2. 信頼と対話
3. 公平と公正



1. グループの総合力でグローバル化を推進する
2. テクノサービスで世界のベストパートナー企業を目指す
3. 社員の潜在能力が最大限発揮できる職場作りを目指す

経営指針

『我々はわが社を最も働きがいのある、
最も働きやすい職場にしよう』

モットー

人（私たち）と、企業をリングで表し、その2つがしっかりつながることで、無限“∞”の可能性を表現しています。
人（私たち）のリングは情熱、熱いハートを表現した赤、企業のリングはコーポレートカラーである青（ミウラブルー）で表現しています。

ミウラグループ企業行動規範

- 法令等の遵守
- 人権の尊重
- 社会貢献・反社会的勢力との関係
- 安全性の重視
- 取引ルールの遵守
- 企業情報開示・情報管理
- お客様の満足・信頼
- 環境問題に対する取り組み

https://www.miuraz.co.jp/corporate/code_of_conduct.html

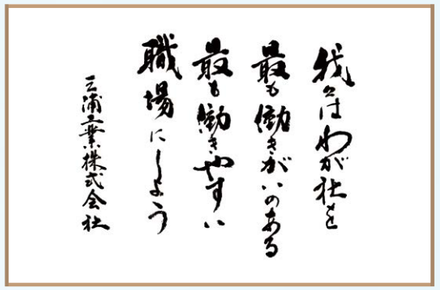
ミウラらしさの原点

創業者 三浦 保は企業人として、貫流ボイラの発展に一生を捧げ、そして「三浦工業」という会社をつくり上げました。一方、趣味や遊びにも情熱を注ぎ、多彩な表現の人でもありました。そのような日々の生き方は、今のミウラらしさの原点であり、挑戦や失敗を恐れず、仕事に厳しく人に優しいミウラらしさとして受け継がれています。









三浦 保 直筆

「わが社のモットー、それは『我々はわが社を最も働きがいのある、最も働きやすい職場にしよう』というものです。この働きがいをもって働くということが、良い仕事ということです。全社員が、いきいきと、働きがいをもって働いておって、その会社が繁栄しないわけがない。と、これは私の強い信念です。」

—— 創業者 三浦 保



三浦 保 直筆





芸術家としての活躍

三浦保は、陶芸、能、書、絵画などを嗜み、晩年は、独自技法による陶板画の制作に情熱を注ぎ、芸術家としての活動も展開しました。

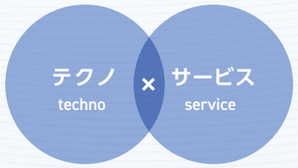
「夢を持って仕事に取り組もう。夢は目標であり、それを実現するのは創意と工夫、そして、あらゆる困難を克服していく積極的行動力だ。」



東京・国立能楽堂で能を舞う三浦保

ミウラに根付く「テクノサービス」

創業者 三浦 保が掲げた「テクノサービス」は、時代を超えて、今もミウラを象徴し続けています。「テクノロジー（技術）は、サービス（心配り）にのせてはじめて本物になる」お客様の役に立ちたいとの思いから生まれた言葉であり、今もミウラの従業員に受け継がれています。



= 顧客に役立つ技術 × 顧客に愛され、信頼されること

テクノサービス

テクノとは、
顧客に役立つ技術のことです。
サービスとは、
自分という人間が顧客に愛され
信頼されることです。
テクノサービスとは、
この二つを掛合わせたものです。

個人の持つ裁量が大きく、
自由にのびのび働ける環境。
三浦工業 近畿統括部 営業 入社5年

チャレンジ精神、現場の機動力が命!!

三浦工業 北関東・信越統括部 営業 入社8年

困難な状況にある時でも、
全社で協力して前に進んでいる
姿勢と一致団結の力。
三浦工業 システム統括部 入社2年



テクノサービスの考え方と
独自の保守契約制度ZMPがミウラの強み。
チームの力でお客様の課題解決と
省エネに貢献することに、
仕事の価値を感じます。
台湾三浦工業 メンテ技術部 教育／技術サポート 入社19年

互いに学び、尊重し、
協力しながら共に成長できる。
一人一人が大切にされる。
そんなミウラの一員であることを
誇りに思います。
ミウラカナダ 人事 スタッフ 入社2年

「お客様の希望から学ぶ」という姿勢に、
いつも胸が熱くなります。
お客様に満足いただくための
知識や技術を磨く。
その積み重ねの中で、成長していくことを
日々感じています。
三浦工業（中国） フィールドエンジニア 入社24年

上司も同僚も優しく協力し合うところ。
中国の空を青くするため、
低NOx・高効率製品を開発し続けている。
三浦工業（中国） パーツセンター
スタッフ 入社18年

ミウラのLXボイラに触れたときは
半信半疑でしたが、
その性能にすぐ納得しました。
高い効率と必要な蒸気をすぐに供給できることが、
私たちの大きな強みです。
ミウラカナダ ケベック・サービス部門
フィールドエンジニア 入社3年



お客様に対して熱心になって真摯に向き合っているところ。

三浦工業 中部統括部 営業 入社8年

受け継がれる「ミウラらしさ」、一人一人の中に。

創業以来、大切に受け継がれてきた「ミウラらしさ」。
その思いや姿勢は、私たちの中に息づいています。
今、そして未来へつないでいきたい一人一人の思いを紹介します。



ミウラの大きな強みの一つは「人」。
仕事に誇りを持つ、
すばらしい仲間が集まっています。
ミウラカナダ マーケティング
製缶・溶接工 入社5年



メンテ員でありながら営業マンでもある。

三浦工業 中国・四国・九州統括部
フィールドエンジニア 入社5年

居心地よく第2の家のような存在。
同僚に支えられ、さまざまな部署で経験を重ね、
成長できた。ここで働いてよかったと感じます。
三浦工業（中国） 生産本部購買部 入社11年

設計から現場作業まで“すべて三浦工業で対応”。
このスピード感こそが
ミウラらしさだと思います。
三浦工業 関東統括部 フィールドエンジニア 入社8年目

高い技量を持っている従業員が多く、
指導・育成の環境も整っていて、
モノ作りに必要な技量や知識を
習得できるところです。
三浦工機 製造 入社14年



お客様の立場に立ち、期待を超える品質・サービスを提供する。

三浦アクアテック 入社9年

ミウラは台湾において、
省エネと設備の安定稼働を
同時に支援できる
数少ない機器メーカーです。
お客様の課題に向き合い、
迅速に解決策を提案しています。
台湾三浦工業 設計企画部 スタッフ 入社16年



品質と安全を基盤に、
お客様のニーズを第一に考える。
専門技術、誠実なサービス、チームワーク、
そして新製品開発を通じて、
信頼を築き、お客様、従業員、会社が
共に成長していく。
台湾三浦工業 台中営業課 営業 入社16年

きちんと挨拶し、工具を整え、細かく点検する。
お客様先でも、汚れを気にせず仕事に取り組む。
そんな真面目な姿勢がミウラらしさです。
三浦工業（中国） フィールドエンジニア 入社12年

未来を見据えて新しい技術を追い求められる会社。

三浦環境科学研究所 技術開発 入社7年

ミウラには、一人一人が成長し、挑戦し、
責任を担い、アイデアを出す機会があります。
その積み重ねが、より強いチームと
ミウラらしさにつながります。
ミウラカナダ 製造 入社9年

未来を拓くミウラの歴史

ミウラは1959年の設立以来、お客様のお困りごとに応えたいという思いで、製品・サービスを進化させながら、事業を拡大してきました。これからもミウラグループは、世界中のお客様のニーズに応え、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。

時代背景と社会的課題・ニーズ

1959年～

戦後の好景気



ボイラ事業創成期

ボイラ事業への決意

父と共に精麦機を開発していた創業者・三浦保は、朝鮮戦争の特需景気により精麦用のボイラ入手が困難となったためボイラ部門を設立し、独自の傾斜型精麦機を販売する。



ミウラ式傾斜型精麦機

株式会社三浦製作所の設立

「ボイラー及び圧力容器安全規則」が制定され、中小・零細企業の近代化要求にも応えられる小型貫流ボイラの提供を決意し、1959年に株式会社三浦製作所を設立。



小型貫流ボイラの社会進出

「Zボイラ ZP型」が小型貫流ボイラの認証を取得。好景気を背景に好調に売上を伸ばし、小型貫流ボイラの国内トップメーカーに成長。



小型貫流ボイラ ZP型

1965年～

高度経済成長～オイルショックの時代



ボイラ事業の開花・発展期

保全への根本対応

故障を未然に防止し長く使える設備やノウハウの提供を追求し、有料メンテナンス点検制度「ZM契約」、部品保証付き有償保守制度「ZMP契約」を導入。また、自社製造の水処理薬品、軟水装置などを発売。

技術革新、省資源・省エネへの対応

ボイラ効率を向上させる画期的な缶体構造（Ωフロー）の「EH型」（効率85%）を1972年に販売。小型貫流蒸気ボイラを複数設置したMI（多缶設置）システムを自動台数制御装置により実現。



MIシステム導入事例

事業の多角化

空前の造船ブームの中、1967年に舶用補助ボイラで業界に進出。また、蒸気を利用する設備機器（食品機械、医療用滅菌器）の製造販売を多角的に展開。



舶用補助ボイラ VW型



食品機械

1987年～

モノからサービスの時代



ボイラ事業の成長期 グローバル化草創期

「テクノサービス」の確立

「顧客に役立つ技術」と「自分と云う人間が顧客に愛され信頼されること」という2つが組み合わさった、時代の変化に左右されない、恒久的なミウラの姿勢を確立。

ZISオンラインメンテナンス

AI搭載ボイラとその機能を生かすZISオンラインメンテナンスサービスを開始。AIボイラと電話回線を利用したIoTとミウラのメンテナンス網を組合わせた故障を未然に防ぐビフォアメンテナンスサービスを提供。



小型貫流蒸気ボイラ AI型



ZISオンラインメンテナンスシステム

グローバル化への一歩

1982年に韓国三浦工業株式会社へ出資。その後、カナダ、台北市、米国のシカゴ、ロサンゼルスへ子会社を設立。

2000年～

地球温暖化問題、新興国の工業化の時代



ベストパートナー戦略と多角化事業の成長

ベストパートナー戦略

お客様と共に社会課題の解決に貢献することを目指し、ベストパートナー戦略を展開。

蒸気ボイラSQ型登場

蒸気ボイラSQ型が業界初の低NOx25ppm以下を達成（2003年）。環境科学研究所が、日本初の化学試験分野（環境分析）でISO/IEC 17025認定取得（2001年）。



蒸気ボイラSQ型

トータルソリューション提案

工場全体のエネルギー効率の向上を図り、オールミウラでワンストップメンテナンスを提供。

2014年～

環境経営、SDGsへの取り組みの時代



グローバルにトータルソリューションを提案

資本提携による事業強化

将来の人手不足への対応やトータルソリューションの強化に向け、2017年にアイナックス稲本株式会社、JENSEN-GROUP NV（ベルギー）と資本提携し、ランドリー事業を強化。



アイナックス稲本の連続式洗濯機

サステナブルな社会実現に向けて

水素燃料ボイラ、業務用燃料電池、パラスト水処理装置などの環境商品を発売。2050年のカーボンニュートラルに向け、次世代のクリーンエネルギーの技術開発に積極的に挑戦。



水素燃料ボイラ SI-2000AS-H2

M&Aによる企業成長

次世代の地球環境を支える企業として常に新たな製品開発、事業拡大を目指す。

2024年にCERTUSS GmbH（ドイツ）、The Cleaver-Brooks Company, Inc.（米国）を子会社化。

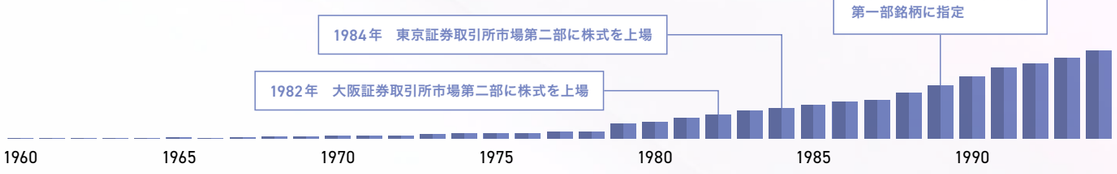
2025年にはミウラ環境エンジニアリング株式会社を子会社化。



CERTUSS製ボイラ



Cleaver-Brooks製ボイラ



企業理念

熱・水・環境の分野で、環境に優しい社会、きれいで快適な生活の創造に貢献します

ミウラは企業理念のもと、企業活動を通じてお客様の課題解決に取り組み、
経営資源を活かしながら事業を展開してきました。
以下に示す価値創造プロセスは、経営資源の活用を通じて価値を創出していく考え方を整理したものです。
そこには、多様な経営資源を通じてお客様への価値提供を継続してきた
「ミウラらしさ」が反映されています。

EXTERNAL ENVIRONMENT 外部環境

地球温暖化の深刻化
- 脱炭素・GXの進展

エネルギー資源の多様化
- 燃料・エネルギー転換の具体化

エネルギー需給の不安定化
- 価格変動・供給リスク

海洋環境・生態系への影響の顕在化

労働人口の減少
- 省人化・自動化ニーズの高まり

デジタル技術の進歩
- 見える化・データ活用の高度化

INPUT 経営資源

財務資本
- 安定した財務基盤（R&I 発行体格付：A）

製造資本
- 製品・サービスを支える技術・知見
- 登録特許件数　国内1,024件　海外197件

人的資本
- 専門性を持つ多様な人財が事業を支える

社会・関係資本
- お客様との長期的な信頼関係

自然資本
- 事業活動の前提となる自然資本

BUSINESS MODELS 事業活動

トータルソリューションを支える基盤

技術・生産力（開発・製造）
- 顧客密着（Close to Customers）
- テクノサービスの実践

営業・販売力

メンテナンス力（保守・点検）

OUTPUT トータルソリューションによるお客様への価値提供

まるごとメンテナンスサービス P21-22



国内シェア No.1※
ボイラ
小型貫流ボイラ



国内シェア No.1※
減圧沸騰式洗浄器 RR
メディカル機器
器具除染用洗浄器



国内シェア No.1※
ろ過ユニット
水処理機器
業務用軟水装置



搭載数 国内No.1※
舶用機器
舶用補助ボイラ



国内シェア No.1※
食品機器
真空冷却機



フィールドエンジニア 約1,200人 国内
メンテナンスサービス
メーカーメンテナンスで国内対応

※自社調べ

OUTCOME トータルソリューションによるお客様への提供価値を通じて生まれる成果

お客様への価値
- 温室効果ガス排出量の低減
- 資源利用の最適化
- 製品ライフサイクル全体におけるエネルギー効率の向上

［補助的な成果］
お取引を通じた、協力会社やサプライヤーの技術力向上と長期的・持続的な成長

社会への価値
- 人（働く環境）
  多様性が尊重され、一人一人が能力を発揮できる安全で働きやすい職場環境の形成
- 地域（経済）
  雇用や調達を通じた地域経済の活性化
- 地球環境（脱炭素）
  カーボンニュートラル社会の実現への貢献

収益への価値（株主・投資家）
- 中長期的な企業価値の向上
- 株主への安定的な利益還元